

「コロナに負けるな！」



未来を 京都と子どもたちの明るい

Morita Mamoru Reportage

京都市会議員

森田 守

まもるポ

Vol.7
2021.7月

令和2年9月市会代表質問

●京都市への

退職自衛官の採用

Q 森田守 自衛官は、日本の平和と独立を守るために、国の防衛や災害派遣、国際平和協力など特殊な任務に就かれており、屈強さを保つという観点から、多くの方が50代半ばで退職されます。その勤務経験を通じて得られた専門的知識、能力、経験を京都市で発揮していただきたい。

自衛隊、京都府、京都市、警察や消防、さらに企業等を含めて縦横のネットワークを構築し、強じんな防災、危機管理対応の体制を実現するために、是非とも退職自衛官の京都市への採用を実現すべきと考えますがいかがですか。

A 岡田副市長 退職自衛官は、防災、危機管理のスペシャリストであり、災害発生時には自衛隊等の国の機関とのスピーディーな連携や調整、現場に即した的確な助言、指導等に貢献していただくことが期待できます。あわせて、平常時には、地域防災計画や業務継続計画、国民保護計画の点検、見直し、また、近年頻発する水害等を想定した効果的な訓練の実施、本市職員の危機管理意識の向上などに力を発揮していただけるものと考えております。

こうしたことを踏まえまして、令和3年度に退職自衛官を採用し、より強固な防災、危機管理体制を構築することにより、市民、事業者の皆様の命と暮らしを全力で守ってまいります。

●府市協調

Q 森田守 京都府の各種施策から京都府市だけが除かれる、または、補助額や補助率が他の府下市町村と比較して差を付けられているいわゆる差等補助の問題です。京都府の施策には、京都市と他の府下市町村の間に法的根拠のない格差があるものも今なお存在しています。

京都市民も京都府民です。同じ府民税を負担している京都市民に対して法的根拠のない格差を生じさせないよう、知事、市長はもちろんのこと、事務レベルでの連携を肩推し進め、府市協調を新たなステージへ進化させるべきと考えますがいかがですか。

A 門川市長 森田議員御指摘のとおり、今なお、格差が存在していることも事実でございます。京都市民も京都府民であり、府内人口の56パーセントを京都市民が占めております。さらに、新型コロナウイルスの感染者も、大都市である本市で多く発生し、飲食業、宿泊業等への影響も深刻であるため、市民の命と健康、暮らしを守り、経済を守るために、本市が大きな役割を果たさなければなりません。

そうした状況を踏まえ、改めて、法的根拠のない格差を生じさせないという認識を府市で共有し、府市協調から府市丸へ、本市と京都府がそれぞれの強みをいかし、京都全体の更なる発展につなげていく新たなステージへと進化させてまいります。

●災害に強い道路づくり

Q 森田守 国道162号については、緊急輸送道路でありながら災害に対して強じんであるとは言えないうえに、京都市が責任を持って災害時の復旧や道路の維持管理に当たらなければなりません。そのため、これまでから国道162号においては、右京区梅ヶ畑川東地域の杉の里トンネル、京北細野、周山地域の京北トンネルの供用開始や、高雄地域の道路改良第1工区、第3工区の完成など、トンネル、バイパス事業を実施してこられました。

一方、京都市と京北町が合併した際の京都市・京北町合併建設計画では川東地域の道路拡幅事業を推進すると明記されていたにもかかわらず、第1工区は完成したものの、合併から15年が経過した現在でも第2工区については着工にすら至っていません。

このような状況を踏まえ、国道162号の強じん化をはじめ、より災害に強い道路造りに臨んでいただきたいかがいますか。

A 鈴木副市長 近年、災害が激甚化する傾向にある中、平成30年度と比べ、道路の災害防除に関する予算を6割増とし、防災機能の強化を図ってきているところであります。森田議員御指摘の国道162号は、予算を平成30年度に比べ倍増させ、重点的かつスピード感を持って、災害の防除に取り組んでおります。さらに、右京区梅ヶ畑川東地域において、災害発生のおそれがある6箇所の回避と、円滑な交通の確保に向け、二つのトンネル、二つの橋から成る、延長約1.3キロメートルのバイパス工事に今年度から着手し、抜本的な対策を講じてまいります。



森田 守 プロフィール

昭和50年 6月15日生まれ
平成6年 同志社香里高等学校卒業
平成10年 同志社大学法学部法律学科卒業

平成10年 ㈱セブンイレブン・ジャパン入社
平成16年 参議院議員二之湯智秘書
平成27年 京都市会議員初当選

平成31年 京都市会議員2期目
家族構成 妻、子ども5人の7人家族
趣味 スキー、アウトドア、マラソン

● 林業振興

Q 森田守 京都の林業は、事業者の収入が低迷し、従事者の確保と継続的な育成が困難になってきています。市内の林業従事者は10年前の224名から129名に大きく減少し、市域の4分の3の面積を占める森林の整備を担うことが困難となり、熟練の技術が次代に継承できないことも懸念されています。今年度の予算で新たな森林経営担い手支援補助金を創設し、高性能林業機械の導入を支援されていますが、周知不足により制度の公正性、公平性を疑わせる事態が生じたことは極めて残念であり、大いに反省していただきたい。

実効性のある林業振興策を盛り込んだ新しい森林行政基本方針の策定を進めていただきたいと考えますがいかがですか。

A 門川市長 次期方針では、木材の生産から流通、消費まで、一連の流れの中で課題を抽出し、林業の可能性を拡げる取組を強化する必要があります。とっておきです。

とりわけ、生産支援担い手育成につきましましては、高性能林業機械の導入による作業効率の向上や安全な労働環境の実現を図るため、今年度、新たな森林経営担い手支援補助金を創設いたしました。森田議員御指摘のとおり、この事業の周知に不十分な点があったことを踏まえ、これを教訓として取り組むよう担当局に強く指示したところでございます。

今後、林業を持続可能な産業として次代に受け継いでいくため、様々な分野の有識者や事業者等、幅広い層の皆様から意見を頂き、その実現に向けて、全庁一丸となって取り組んでまいります。

● 過疎対策

Q 森田守 京北町が京都市右京区に編入合併されてから、15年が経過しました。

この間、京北でも、合計85億8,700万円もの膨大な過疎対策事業を実施してこられました。その間、人口減少、少子高齢化に歯止めが掛らず、基幹産業である農林業も、需要の変化、従事者の減少、高齢化などにより低迷が続いています。新型コロナウイルス感染拡大という大きな変化によって、出社せずに自宅などで働くテレワークが大きな広がりを見せ、さらには休暇を取りながら仕事をするワーケーションが生み出され、自然環境に恵まれた京北地域にとっても大きなチャンスではないかと思っています。過疎債は、非常に有利な借金と言われていますが、その目的は京都市の厳しい財政状況を救済するためのもではなく、あくまでも過疎地域からの脱却にあるという視点を忘れてはなりません。

次期過疎地域自立促進計画策定に向けての御所見を伺います。

A 村上副市長 合併から15年、本市では、京北トンネルの開通をはじめ、光ファイバーによるインターネット環境や京都京北小中学校の整備、農林業振興など、京北地域の発展の土台づくりに取り組んでまいりました。森田守議員御指摘のとおり、豊かな自然と充実したインフラ環境を最大限活用し、コロナ以降の山間地域への評価の高まりや多様な働き方等の動きを十分に捉え、京北地域の活性化の流れを確かなものとしてまいります。今後とも、過疎法による支援継続を固く要望し、地域の皆様と一体となって、50年後、100年後を見据えた持続可能な山間地域の実現を目指してまいります。

● 身辺雑記

勇退 二之湯智参議院議員が今期限りでの引退を発表された。

私は、秘書として11年間仕え、京都市会議員に当選してからも、今日まで6年間、指導いただいた。

また、故前尾繁二郎元衆議院議長は、衆議院選挙に出馬される前の昭和24年からの3年間、私の祖父田中動助が住職を務めておられたが、そこに二之湯智先生が秘書として出入りされていたことは、何か不思議な因縁を感じる。

大衆迎合することなく常に問題意識を持ち、問題の本質とその解決策を導き出す力、誰に対しても分け隔てのない人間味の溢れた対応は非常に勉強になった。



● 拝命

今年度、京都市会で教育福祉委員長を、党務で自民党京都府連青年局長を拝命した。年齢も働き盛りと言われる40代半ばとなったが、将来自分の人生を振り返った時に、後悔が残らないよう、しっかりと与えられた責務を全うしたい。

みなさまの“声”が市政に活かされています!

四条中学校東側西小路通ガードパイプの設置

四条中学校東側の西小路通は、多くの児童生徒が通学に利用するにも関わらず、ガードパイプがなかったため、地域の皆様から安全の確保のためにガードパイプ設置の要望を受けていました。教育委員会や建設局にご理解をいただき、今年4月にガードパイプが設置され、児童生徒、また通行する全ての方々の安心安全につながりました。



三条通街灯のLED化

三条太秦繁栄会さんは、長年にわたり独自で街路灯を設置されていましたが、この度要望を受けてそれらの街路灯を撤去し、新たにLED市街灯を設置することになりました。順次撤去と設置が進んでいますが、今回のLED化で、人も車もより安全に三条通を通行できるようになります。



毎年夏に開催しておりました「納涼の夕べ」は、昨年引き続き中止いたします。

未来を 京都と子どもたちの明るい
Morita Mamoru Reportage

まもるポ

是非、みなさまの“声”をお聞かせください!

編集・発行

京都市会議員 森田 守事務所

〒615-0027 京都市右京区西院西三蔵町9-1 Connect西院2F
(阪急西院駅(西改札口)より徒歩約2分)

TEL&FAX: 075-313-0023

E-mail: moritamamoru.kyoto@icloud.com

<https://www.moritamamoru.kyoto>

